夕刊 東北日日新聞
年中無休刊
本紙一ヶ月三十錢 郵税一五錢一部三錢 廣告料一行五〇錢 場所指定二〇錢増 發行兼編輯印刷人 石井孝 發行所 福島縣石城郡平町白銀町十番地 東北日日新聞社 電七七

社説

廿三日の町長選擧町會の當日は定刻よりおくるること四時間余、二票の差によつて遂に伏見氏が再選した。

各新聞の歩調はそれぞれ相違したるも、平町の重大町會の前後を通じて特色ある觀側をしてゐる。然るに、ひとり大新聞として天狗のはなが高い。東京日日紙のみは、凡ての輿論を無視して、青沼氏に町長決定したと、廿二日の福島版にれいれいしく、低能ぶりを發揮してゐるが、いかに記者眼にいろめがねをかけとは言い、その余りに甚しき無能ぶりには呆然たるを得ないのである。

廿三日の町會終了後ならでは判明しない時事の問題をいかに血迷ふたりとも決定せりと斷定し、青沼氏の寫眞を掲載するに到りては大東日の權威なへんにあるかを疑ふ。通信の無能はついに、まつさつの出來ない低能ぶりを三萬町民にばくろするばかりでなく、福島縣下に通信上の無定見さをその愚を、さらしたのである「決定す。」の語に對しては、大東日の責任を問ふものである。平町の通信上の失態なりとせば今後街上にいらそうな顔して歩くことは考へて貰はねばならぬ。大東日の記事を小東日の本社が指して嘲笑す。

●●●●税務主任會 石城郡内各町村税務主任會議は二十三二十四日の兩日平町元郡役所に於て開催したが縣からは大高屬臨席した

御手並を見られる
中村新支店長
石城地方經濟戰の
…八者は果してどちら？

平銀行を併合した常磐銀行では去る十六日から看板を塗りかへて愈々常磐銀行の施政方針に依つて營業を開始した石城郡地方の本店銀行の營業が振はない現在のところでは七十七銀行支店が雄躍し殆んど獨り舞臺の感があつたところに之れ又大銀行で堅實を看板の常磐が進出して來たので結局七十七と常磐が對抗して行く事になるので此の對抗は本店の方針は勿論ではあるが直接支配權を持つてゐる支店長の手腕が信用を持ち不信用を招く事になるのである、七十七の支店長山田勇太郎氏は既に銀行動搖の際に手腕を見せて居り定評があるが常磐の新支店長中村梅三郎は過去に如何なる經驗を有するかは解らないが石城には始めてで殊に政黨を背景にして居た銀行と併台したものであるだけに下手な事をすれば株主から排折を受ける事になり中村支店長のゴシユワンが何の程度のものか、何れも注目してゐる。

宮城縣下の大火
氣仙沼町千五百戸燒失
今度の大火は二度目で 損害その他は調査中

宮城縣氣仙郡氣仙沼町字魚町氣仙沼警察署附近から二十四日午前一時頃出火し見る〱うちに火は猛烈な西北の風にあほられて全町に燃へひろがり午前八時迄には全町の六割九百六十戸を燒き拂ひ尚延燒中であつたが十一時頃に至り漸く全町をなめつくし火はおどろいたが全燒失家屋は千五百戸以上を算してゐる、罹災者は避難するに場所なく寒風に吹きさらされてたまゝでおる、尚燒失した主なる建物は警察署、郵便局、公立病院、女學校、小學校等で死傷者もある見込み、尚同町は二十年前に失火で全町燒失した事あり今度の大火は二度目である

客を引張つた
—酌婦にお目玉

平町南町飲食店笹川トメ方酌婦佐藤ミツ(二〇)は去る十日石城郡飯野村菊田喜十郎(二五)を無理に登樓せしめた事平署員に探知され今二十四日から九十日間の營業を停止された

巣立ちの小鳥は どこに行く？
兒童にとつて樂しくまた惱ましいのは卒業期三月

親鳥のはぐくみを受けて育つた小鳥は、樂しいようらんと小鳥に左樣ならをして巣立つのである。つばさの弱い小鳥達、は自分のエサを求めて飛ばねばならぬ。雨は降る、風は吹く、愛らしき小鳥達よ何處に行く？。

三月小學校の卒業期を前にして試驗地獄、考查地獄等と八釜しく言はれてゐるが就職地獄も現出されてゐる事を多くの識者は忘れてゐる石城郡内各小學校本年度**卒業生** 中上級學校を志望するものは極めて少數の一部分であつて卒業生の大半は實家の手傳をするか左もなければ手職を習ふか又は自ら生活を開始すべく職業を求めるかするのであつて**兒童** の殆んど全部は樂しかるべき卒業期に當つて小さな胸を惱ましてゐるのである、平職業紹介所では郡内各小學校當局と聯絡をとり兒童就職難緩和の爲めに努力して居るが**紹介所** の手を經て良職を見付けるものは之れ又少數で殆んど大[illegible]者は其の家庭の方針によつて社會の荒浪の中に飛び出すのである、學校と云ふ、ようらんを巣立つた小鳥たけが何處に行くか？これは大きな社會問題であるが**磐中** の志望者は約五百名で此の中半分の二百五十名は考查地獄に惱む事にもなる、何れにしろ、何れに進むにしろ、來三月の卒業期は兒童にとつて樂しくありまた惱ましい日であらう

投書歡迎

坑夫組合支部が
社民黨を支持
大衆黨に殘留する志あり
結局は分裂の悲運か

日本大衆黨を支持して來た日本抗夫組合常磐地方聯合會が右傾して社會民衆黨に加盟する形勢となつたので大衆黨本部から幹部高梨二男氏が來平、幹部間に鎮壓方法を講じたが奏効せず結局社民黨支持に轉換するものと見られるに致つたが聯合會支部では二十四日正午から黨務執行委員會を開き協諧の末社民黨を支持する事に決定したが、一部組合員間には右傾する事を心良しとせず、中間派として大衆黨を支持する事を主張し二十五日全樣執行委員會を開く由である無産黨支持問題から日本坑夫組合常磐地方聯合會が分裂するのではあるまいかと見られて居る

木村氏來平

仙臺市七十七銀行常務取締役木村清五郎氏は二十四日來平山田同行平支店長と共に取引關係を歷防挨拶をした

四ッ倉消防
—組頭決定す—

石城郡四ッ倉消防組頭は昨年十月戸田雄章氏辭任以來欠員のまゝとなつてゐたが二十四日後任として門馬倉次郎氏就任した

平電の合併
來る五月頃に

資本金五十萬圓をもつて創立された小玉川水電株式會社は來る四月頃から發電所工事に着手し五月上半期決算前にかねての計畫通り資本金六十萬圓の平電氣株式會社と合併する由である

消防 映画公開
平消防組主催で

福島縣消防基金拾萬圓に對する平消防組割當金額は二千八百圓と定められ此の割當金造成の爲來る三月一日より三日間平町有聲座に於て、消防に關する映画を平消防組主催となり開催する事に決定したが映画の主なるものは天皇陛下御親閱の全國消防大會の實況及チヤールスレイ主演メトロゴールドウイレメーヤー映画(消防隊)其の他である

支局開設

四倉支局
支局長小林庫二
仲町四一番地

ポスト（投書歡迎）

▲或る日、或る閑人が私語するのを一寸立聞したら盛んに「類は友をよぶ」とか「目のよる處に玉がよる」とかと言つてゐる、成程と考へたネ……今度の町長選擧を見給へ青沼氏と云ふ七十に近い翁をかつぎ盛んに意氣込んでゐたのは第一に井上君ジヤないか—如何に世は情でも、こんな事に迄旅は道づれされては、町民が困るジヤネーカエー(玄關番生)▲宮城縣の氣仙沼が大火だと云ふ張紙を見たが誠に氣の毒である、平町なんども二度大火に見舞れてゐるのだから、人事と思はず今日此の頃の樣に大風續きでは火の用心が大事だべーヨー(風上生)

筆洗ふ前に

紅梅の一鉢が、ふつくらしたつぼみの時も短わく、いかにもいさぎよく咲いて、いつしか花はおひて仕舞つた。

つぼみの若い姿であるときは、それよ水……それよ陽向へと。みんな、花みるまでの永い間心盡の數々をさゝげてゐたが、散りて後の紅梅の鉢は、わすれらろ、こともなくわすれられてゐる英雄の事業にも、美しいごい仲でも、こうした淋しい反面がある。

若き生命よ……おごれ……。

青春よ……短かき時をむだに亂費してはならぬのだ。

來春に花をもたせるために、技を切られねばならぬ。切らうとして切り得ない心をみつめながら

——考へさせられた。

林説　色洞講（七）

炊骨庵

平中が此の道の達人である事は彼が歌人である事と同様有名で、今昔物語宇沸拾遺物語、大和物語等の中に記されてゐる事でも解るが此の平中が言ひ寄つても應じない、侍女があたのであまりの戀しさに女の糞を食つたと云ふ事も傳へられてゐるそれは、村上天皇の御母后の侍女に本院の侍従と云ふ若い美しい女があつた、これに目をつけた平中が再三再四戀文を送つたが返事がないので文を見たか見ないかその返事をを聞かして貰いたいと云ふと、文は見たと云ふ簡單な返事があつたゞけで、平中は女を忘れる方策として女の糞も自分のと仝様であらうからそれを見たらキットいやな氣持ちになつて女を忘れるに違いないと侍従の童女が「おまる」に尿を入れて捨てに行くところを待ちかまいて横取りして開いて見ると非常に良い薫りがするのでそれを飲んで見ると複郁たる香氣が五体にしみ渡る様、更らに其の尿を喰つてみると之れも又素敵な味なので忘れるどころか却つて侍従の戀しさが増したそうだが侍従は平中がこんな氣狂じみた事をする事を豫想して香氣を入れてこうした尿に似た飲みものを造つたものだそうで、隨分面白い、悠長な戀愛の戯れである。

◇競艶色ざまざま◇

競演者

瀧川静子　夏花久江　入江たか子　佐久間妙子　市岡惠子　對馬るい子　築地浪子　澤蘭子　英百合子　伏見直江

原作――森岩雄
監督――阿部豊

寒風慄然たる最夜中暗を突いて走る東京持急列車中に經濟界に時めく海底王一千萬成金大川虎介なる者が花嫁物色の旅を續けてゐる

大川のまき散らす紙幣に惑されて大川を中心として忽ち現在女性の展覽會が開かれた

肉的魅力に惑溺せんと慾してゐる大川成金は如何なる女性を手に入れるか

――（近日平館で上映）

外科一般（入院隨意）
内臓外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵
金物問屋㊋釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番　一三九番
振替貯金口座　一〇九五六番
確實敏捷は㊋の生命なり

俺が服見よ、自慢ぢやないが
買はぬ者ない、正札堂
アラ正札堂
物は試しよ、正札堂へ
來てよ奥さんせ、服買ひに
アラ服買ひに
薄利多賣は此の店の主義
不景氣泣かせの、福の神
アラ福の神
正札堂
平・四丁目停車場通り

◎◎オートバイ
◎サイドカー付　貸切
◆自轉車月賦販賣
織田自轉車店
電五三二番

處方調劑、藥品一般
体温計、寒暖計
滋養藥品、化粧品
平町五丁目角
山野邊藥局
藥劑師　山野邊東次郎
（健康保險藥局）

▲祝創刊▼
三井はきもの店
平・二丁目
電一五六番

平……四倉
平……湯本間　乗合
貸切迅速
尼子自動車部
電六四〇番

日本一ゼブラ製品
代理店
惠比壽屋自轉車店
平・南町通り
電六六四

食パン　一斤　十六錢
ミツワ
プラム
アマンド
クリーム
ウヅマキ
一ツ五錢
マツモトヤ
四丁目・電二二四

イスとテーブル
家具一式製造
丸ほん
三丁目・電三五九
月見町工場・電七二三